

小さな希望を未来につないで

2～5面 YWCAの春だより

6面 ウクライナの子どもたちの絵画展

7面 ここ＊LOCOだより

The Young Women's
Christian Association

YWCA

2

FEBRUARY
2026

No.790

〈第34総会期主題聖句〉
平和を実現する人々は幸いである
—マタイによる福音書5章9節—

〈ビジョン〉
女性がリーダーシップを発揮し、
人権・平和・環境を大切にする社会

〈ミッション〉
若い女性をエンパワーし、共に社会変革を進めます。

〈バリュー〉
キリスト教基盤 平和・環境 人権 セーフスペース

Since 1905



「世界で一番好きな河」

私は私の街が大好き。

特に川沿いの遊歩道は私のお気に入りの場所。

でも今は戦争でとても歩けないの。

いつか平和が戻って散歩できる日が来るといいんだけど……

ミラナ・ヴォロフォヴァ
(11歳)

column

東京
YWCA

生命をえらぶ

過ちの記憶を次の世代に継承する



YWCAは、自分たちの進む道が生命か死、どちらへ続く道かを絶えず確認しながら歩んできた*。

2011年3月11日、東日本を激震が襲い、翌日には東京電力福島第一原

子力発電所の爆発が起きた。原発の恐ろしさを学んでいた私たちは、翌12年、グループを立ち上げた。先達の思いを受け継ぎ、グループ名を「生命（いのち）をえらぶ」とし、中心となるのは、



2026年の最初の号は、地域YWCAのコラム集。
長く大切に続けている活動から新たな取り組みまで、
それぞれの歩みにある
小さな希望を感じてもらえたら嬉しいです。

『核』否定の思想』であると考えた。
YWCAが1970年に打ち出したこの思想は、「核」を頂点とした現代文明に否を言うことであり、自分たちの生き方を問い直す表明でもあった。以来、グループは学び、考え、行動へと活動を広げていった。

2020年「核」に関する講演会を企画するも実施直前、新型コロナウイルス感染症拡大のためやむなく中止となった。長引くコロナ禍、メンバーの高齢化により8年にわたる私たちのグループは解散となった。

その後の岸田政権は、エネルギー危機と脱炭素化を背景に原発回帰の路線を打ち出した。2025年、政府はエネルギー基本計画で、事故後の政策の出発点である「可能な限り原発依存度を低減させる」を削除し「原子力発電を可能な限り最大限に活用する」と方針転換した。

半世紀にわたり『核』否定の思想』に立ってきたYWCA、として、一會員として、このままでいいのかという素朴な思いは消えず、再びグループをと念願する中、思いを同じくする若い仲間と共に、25年6月グループは再び発

足した。

まもなく柏崎刈羽原発に続き泊原発再稼働容認のニュースが大きく報じられた。原発利用についての国民的議論は尽くされず、疑念が拭えぬまま、なし崩しに原発依存が固定化していくことを私たちは危惧する。

使用済み核燃料を処理して再び発電に使う核燃料サイクルの実現の見通しはなく、高レベル放射性廃棄物の最終処分地も決まっていない。原発が抱える重大かつ根本的欠陥への対処を国が先送りしながら、原発回帰に向けた重い判断を立地自治体に押しつける。なんと不条理なこと。

二度と繰り返してはならない重大な過ちを犯した時、人は繰り返し記憶の継承という問題に立ち向かう。体験者の世代で記憶を途切れさせず、次の世代へ受け継がれよりよい社会を作ることができれば過ちの一部は償うことができる。私たちはそんな思いで活動を続けていきたいと願っている。

東京YWCA会員 実生律子

*『旧約聖書』申命記30章19節に基づく。

column

静岡
YWCA

原爆絵画展

被爆者の深い思いを伝え続けて

1974年、NHK広島放送局に一人の高齢男性が自らの被爆体験を描いた一枚の絵を持ち込みました。これをきっかけにNHKが被爆体験の絵を募ると、2225枚におよぶ絵が市民から寄せられました。その一枚一枚には、30年にわたり語られなかった被爆者の深い思いが込められていました。

1976年、その原画を借りた絵画展が神戸YWCAを皮切りに、大阪・京都・名古屋・甲府YWCAでリレーのように展開されました。1981年



2025年は「戦火の中から」と題し、原爆絵画30点のほか、ウクライナの子どもの絵画40点（6面参照）、そして憲法9条の条文をパッチワークしたキルトを展示

に創立した静岡YWCAもその取り組みを知り、リレーに加わりました。絵画展の前後に開催された6市YWCAの集まりの交通費はプール制、よい学習のひとときでした。

現在は甲府YWCAと静岡YWCAのみとなりましたが、今年もまた「ピースフェスティバル」で37回目の展示をする予定です。被爆した方々は、つらい体験を「私がそこにいた」「私が見た」「私がそれを伝える」というメッセージとして発信しています。私たちはそれをしっかりと受け取って次世代に伝えていくことを決めました。それが私たちにできるピースメイキング！ であると、そして被爆者だった亡き会員の「核兵器の廃絶、目指してくださいね」という言葉を思い起こします。

静岡YWCA会長 石原清美



column

甲府
YWCA

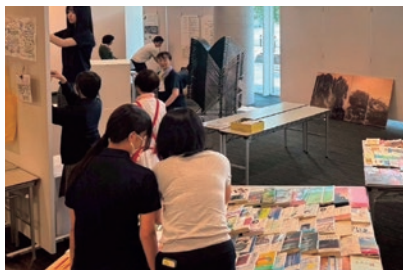
ピースフェスタ

若い世代と共に核のない平和な世界を

甲府YWCAは創立78年になりますが、最も長く続けている活動が、年に一度の原爆絵画展です。

1970年代、原爆の惨状が描かれた絵画をリレーのように手渡しでつなぐ展示会が、複数の地域YWCAで開かれていました。

甲府YWCAは1981年に開催し、現在まで続けています。2014年から名称を「原爆絵画展」から「ピースフェスタ」に変更し、「核のない平和な世界を実現する」を掲げて、絵画展の



山梨英和中学・高校YWCA部、山梨英和大学、そして甲府YWCAそれぞれのメンバーが一つのチームになって、会場づくり。試行錯誤しながら力を合わせて進めました



ほか、被爆証言、講演会、映画会、音楽会などの関連プログラムを行ってきました。近年は、山梨英和中学・高等学校YWCA部、山梨英和大学、山梨YMCAなどの協力を得て、若者たちが平和について考えて行動した成果を発表する場にもなっています。会場づくり、片づけにも参加してくれるので大助かりです。2025年は、甲府YWCAで新しく立ち上がった「ユースの会」のメンバーがシニアには思いもよらないアイデアで盛り上げました。また、山梨YMCAの学童保育の子どもたちから感想文を寄せられ、とても励まされました。

長年、賛助員をはじめ多くの人々に物心両面で支えられ、43回続けることができて感謝です。すでにユースには2026年度の計画があるそうで、今から楽しみにしています。

甲府YWCA会長 山本貴美子



「Wの会」はセーフスペース。安心して思いを語り合い、互いの話を聴き合います。メンバー同士フレンドリーで、作業中もおしゃべりと笑い声が響きます

「女らしさは命にかかわる」通称「Wの会」は、2018年から横浜YWCAで始まった会員活動です。1・2カ月に1度、対面またはオンラインでの話し合いを活動のベースにしています。「女だから」直面する日常生活のさまざまな理不尽や不満、疑問を話し、背景にある法制度や差別の構造について探ったり、どうしたらよいのか考えたりしています。ここしばらくのテーマはSRHR（性と生殖に関する健康と権利）です。誰

みんなの経験を共有し日常を生きやすく

column

横浜
YWCA

Wの会

モヤモヤを聞かせて



を好きになるか、産む／産まない、結婚する／しない、といったその人その人の選択を「変わってるね」ではなく「そうなんだ」と受け入れ合える社会にするためには、小さくてもどんなことができるか？ という視点で多様な角度から話し合いを続けてきました。例えば、過去に言われてモヤッとしたこと、嫌だったことについて話した際は、「こんな風に返すと良いかも」という提案のほか、スルース、体を温めるなどのセルフケアをする、物理的に離れるといったアイデアも出しました。

こうして積み上がってきた気づきをZINEやワークショップなど何かの方法で多世代の女性たちと共有したいと考えています。みなさんの経験も加えたいと願い、アンケートを実施しています。ぜひ声を聞かせてもらえたら嬉しいです。

横浜YWCA会長 堀添里緒



手芸が好きなメンバーが集まるキルトボランティアの会。みんなで分担して作業を進めています。手も口もたくさん動かして、作業現場は和気あいあい

1988年にアメリカの女性たちが立ち上げた「ABCキルト活動」は、生まれながらに困難を負った子どもたちのために手作りのキルトを贈る運動です。現地で参加した故・岡野房江さんを講師に98年から湘南YWCAの活動として始めました。

小さなキルトをつなぎ合わせ、90cm四方の「おくるみ」に縫い上げます。2003年に終了するまで、6年間に180枚を制作しました。その後、教会

心を込めて縫いつないでいくもの

column

湘南
YWCA

キルトボランティア

を通してつながったタイのHIV/AIDS孤児の施設を支援することになりました。2012年に一定の役割を終えて施設が閉じるまで、10年間に300枚を寄贈しました。また、この年からは東日本大震災の被災者支援として、福島YWCAを通じて保育所や乳児施設などに役立ててもらいました。また、地元の鎌倉や周辺の養護施設や一人親家庭などに贈るほか、地域の要望にも応えています。

毎年11月末にその年に制作した作品の展示会を催し、そこで小物を販売して制作資金をつくり、クリスマスに寄贈しています。2025年は、前年制作の50枚を含めて1000枚を贈りました。ひと針、ひと針、心を込めて縫いつないだ作品を頼ずりして喜んでくれる子どもたちに引き寄せられ、幸せな平和な時が与えられることに感謝するばかりです。

湘南YWCA会員 加藤和子



column

京都
YWCA

RUSV

中高生に伝えたい自分の中のリーダーシップ



京都YWCAユース委員会は2019年からRUSV (Rise Up! School Visits) を実施しています。世界YWCAが発行する『若い女性の変革をもたらすリーダーシップのためのグローバル・ライズアップ・ガイド』をもとに、中高生に向けてワークショップをする活動です。事前に生徒にアンケートをとり、「性と生殖の権利」「気候変動」「音楽と平和」など、関心の高いテーマを取り上げてきました。毎回中高生に伝えているのが「YWCAの考えるリーダーシップ」です。そ



ワークショップの様子。社会へ伝えたいことを画像にまとめて投稿しました

RUSV実施に関する問い合わせ
日本YWCAユースエンパワメント事業部
office-japan@ywca.or.jp

れは「すべての人が持っている、自分らしさを発揮して社会を変革する力」。その力はジェンダーなどの社会課題によって抑圧されていることが多いです。ワークショップを通して中高生が自身のリーダーシップに気がつくこと、自信を持って生きていくヒントとなれることを願っています。

参加した生徒から「身近なことから世界のことまで知ることができる」「話しやすい雰囲気で楽しい」、教員からは「生徒同士が新たな一面を知る機会になる」「生徒の価値観が広がるので卒業後もYWCAとつながってほしい」などの感想が寄せられています。

RUSVは各地域YWCAで実施可能です。ぜひ地域から若い女性のリーダーシップを推進しませんか。

京都YWCA職員 古川由布子

column

札幌
YWCA

Y's Cafe

新たな試み 変らない絆、あの味

2004年から、北海道クリスチャンセンター1階で「コミュニティカフェ」として愛されきた「Y's Cafe」。2025

年7月、移転をお知らせしたところ、「困る」「どうして?」「青春の場所だった」「職場の近くで通っていた」「居場所だった」と、多くの声や手紙をいただきました。21年間、代々のボランティアの誠実な働きとお客さまとの出会いやつながりによって支えられてきました。その思い出とみなさまに惜しまれ、10月1日、札幌YWCA・聖(るい)



店内の書棚には硬軟とりまぜた多様なジャンルの本が並んでいます。丁寧に淹れたコーヒー、手作りのスイーツと一緒に心地よい時間を過ごせます

に移転し、Y's Cafeは22年目の歩みを続けています。

北海道産の素材にこだわったパウンドケーキやクッキーなども引き続き提供するほか、新しいメニューも検討中。また、フードデリバリー業者の誘いを受けて前向きに加盟しました。ご協力いただいている教会や商店などのつながりを大切にしつつ、新たな販売先の拡大を願っています。

「シニアのためのご近所食堂」や「シニアのための歌の会」は参加者が増え、コンサートも喜ばれています。

話したくなったり、困ったとき、ちょっとした一息つきたいとき……気軽に立ち寄れる場所として、地域とのつながりを大切に、「YWCAとして与えられている働き」を行っていきたいと思っています。

札幌YWCA会長 栗城みはる





「きれいな歌を唄っている鳥」アリアナ・シェヴラコバ（6歳）



「戦争」ヴァルヴァラ・ヴィシニェフスカ（9歳）

ウクライナの子もたちの絵画展

私たちは忘れていません

ウクライナから
ポーランドへ

東京YWCAは、2024年10月から1か月間、ウクライナからポーランドに避難した子どもたちが描いた絵を借りて展覧会を開きました。絵を所有するサンスター日本語学校は、ポーランドのクラクフ市にあります。ロシア軍のウクライナ侵攻直後、隣国ポーランドには、多くのウクライナ人が押し寄せ、国境から250キロメートルのクラクフ市も市民80万人に対し20万人を受け入れました。サ

ンスター日本語学校の兵頭博校長は、学生と共に仮設の支援センターでNGOと活動を始めました。侵攻から1年余りたった23年5月、「ほとんど忘れ去られた子どもたちの厳しい状況を感じ取ってもらえたら」と兵頭校長の提案で、日本で展覧会が始まりました。絵は、ウクライナから避難した美術指導者のカタリナさんが、子どもたちと描いたものです。クラクフ市から車で1時間ほどの所に、アウシュビッツ・ビルケナウ博物館があります。兵頭校長にアウシュビッツを案内されたことを機に、日本のバプテスト

教会や学校関係者が協力して日本で絵画の巡回展が実現しました。東京YWCAは、最後から2番目でした。絵の返却を相談したところ、子どもたちは、すでにポーランドにはいないこと、絵を返しても受け取る子どもたちは行方不明であることがわかりました。現地ではウクライナが忘れられてしまうことを非常に怖れていました。そこで東京YWCAが事務局代行を申し出て絵画を預り、停戦まで巡回を続けることを約束して、全国のYWCAに呼びかけました。

日本の子どもや
大人と出会いを重ねて

2025年1月に大阪YWCAからスタートし、京都・函館・福岡・札幌・静岡・釧路・仙台・名古屋・沖縄YWCAを巡回しました。さらに藤沢・富士山YMCA、福岡友の会、北星学園女子中学高等学校YWCA部、教会や地域の団体が参加し1年で18か所を回りました。心に残ったのは、子どもたちが絵画を観たことです。京都YWCAあじさい保育園では、園児が床に広げられた絵を一つひとつ観てお気に入りを探し、また札幌YWCAを通じて絵画展を知った北星学園中学高校YWCA部が学校祭で急ぎよ展覧会を開いたといひます。福岡YWCAの展示を見た人から「子ども会のために貸してほしい」という問い合わせもありました。

また、それぞれの会場でのメッセージカードには、平和を願う大人たちの



やさしい言葉があふれていました。絵を描いた子どもは、祖国を追われ、今のようにしているかわかりませんが、代わりにそれぞれの絵が、日本中の子どもたち、大人たちに出会って、再び東京に戻ってきました。

これからも、まだ出会っていない人に会えるよう、絵画の貸し出しを続けます。今回のことで地域YWCAにたくさん仲間がいることも、改めて実感しました。ぜひ各地域で、周囲に展示を呼びかけてください。そして最終的に、絵を描いた子どもたちに、絵を返すことができること、それが東京YWCAの願いです。

東京YWCA紛争・災害対応委員会担当職員
渡辺陽子

問い合わせ

東京YWCA紛争・災害対応委員会
電話 03-13293-15436

ここ＊LOCOだより

あなたの居場所になりますように

神奈川県からの委託を受けて、日本YWCAが運営するセーフスペース・カフェ「ここ＊LOCO」。2025年11月に平塚YWCA会館に開室してから3か月。日々の営みやスタッフの想いをメッセージに込めてお届けします。



先日、お気に入りのラジオ番組が終了するとの知らせがありました。私と同じように残念に思ったリスナーからの投稿がとても印象に残りました。
「この番組が、私にとつての居場所でした」
居場所といっても、建物や空間を指すわけではありません。しかし、パーソナリティの言葉や、リスナーの投稿に抛りどころを感じていたのでしょう。私にとつてもあの番組は、たしかに「居場所」でした。

ここ＊LOCOの活動が始まって3か月になろうとしています。週2〜3日の開室で、1日にだいたい5名ほどが利用しています。シャワーや洗濯機

が利用しています。シャワーや洗濯機
「ここに来て、初めて自分の話を聞いてもらえた」とおっしゃっていました。普段誰かと会話はしていても、「話ができた」、「聞いてもらえた」という感覚は得にくかったのかもしれない。彼女の言葉から、私たちは心の内を誰かに差し出し、あるいは迎え入れることが難しい日常を余儀なく

の利用のほか、お茶を飲みながら多世代でのおしゃべりに花を咲かせ、時にはネイルや足湯を楽しむ。そんな過ごし方が多く見られます。こうした営みを支えてくれる洗濯機や冷蔵庫はノジマ電気から寄贈されたもので、私たちの頼もしい相棒です。一番喜ばれているのは、温かい食事です。食材はフードバンクからいただくものを生かしつつ、スタッフが手作りで



Column

充実したプログラムの理由^{わけ}

ここ＊LOCOでは、ヨガ、タッピングタッチ、リンパケア、心のケア講座、看護師による健康相談……など、心身ケアのための多彩なプログラムを展開しています。それはもう「プログラムのない日」の方が少ない！ほどの充実ぶりです。

YWCAにつながる信頼のおける講師たちは、ここ＊LOCOの想いに共感し、利用者にあたたく寄り添っています。参加も不参加も利用者の自由。「みてるだけ」も大切な意思表示と考えています。数多く実施する理由は、居場所があることを知ってもらうため、利用のハードルを下げるためでもあります。社会のなかで弱い立場に置かれ、支援のはざまにいる女性たちへよりリーチし、ここでの体験が自分を取り戻す回復の一步となることを願っています。

日本YWCA職員 鶴山祐子

されているのではないかと感じています。ここ＊LOCOは、「ここがあなたの居場所になりますように」という願いを込めて名付けられました。改めて「居場所」とは何を指すのか。集う者が一緒に悩み、相談しながらみんなセーフスペースをつくる営みが始まっています。

エンパワーするNGO



3月8日は国際女性デー

小さな希望を未来につなげよう

3月8日は国際女性デー。1977年に国連で決議された記念日ですが、その発端は、120年ほど前にさかのぼります。当時、工場で働く女性労働者は、劣悪な環境での長時間・低賃金労働を強いられていました。1908年3月8日、ニューヨークで女性労働者が立ち上がり、労働条件の改善と参政権を求めてデモに踏み切りました。その動きは欧米に広がり、女性の権利や差別撤廃を求める国際的な女性運動に発展したのです。

YWCAは先達のバトンを受けて、毎年さまざまなカタチで声をあげています。そしてこの日のアクションでメンバーが着用しているのが、総合アウトドアブランド「コロンビア」の国際女性デーを記念したTシャツです。「女性の多様な生き方を応援する日」を祝して展開されたコレクションで、私たちのアクションにパワーを与えてくれる心強い味方です。2026年もまた、素敵なおコレクションが期待できそうです。今後のリリースに注目しながら、国際女性デーのプランを立ててみませんか。

120年前、女性労働者が一歩を踏み出してから今日まで、無

数の女性たちが、自分とみんな、そして次世代の女性のために声をあげてきました。来たる3月8日、時代を超えたシスターフッドに想いを馳せて、ともに希望をつなぎましょう。

2024年



2025年



国際女性デーコレクションに
関するリリースは
コロンビア公式インスタグラムで
発表予定!



ご協力ありがとうございます

賛助費

石原 麗子 秋元 靖子 飯嶋 祐子
五十嵐 和子 市川 真美 石渡 祐子
内山 伸子 宇都宮 芳子 遠藤 恵美子
遠藤 真理 遠藤 洋子 及川 津紀子
太田 ゆかり 大野 綾子 尾崎 敦子
兼子 佐与子 上遠 恵子 河越 良子
金香 百合 久保 マサ子 斎藤 喜子
小谷 充子 齋藤 知子 斎藤 清子
坂上 信子 篠山 淳子 汐崎 康子
佐藤 悦子 清水 靖子 杉野 孝子
鹿野 幸枝 土屋 幸子 黒木 美奈子
田中美紗子 中尾 真三子 長尾 真理子
手島 弘美 仁木 三智子
中山 美津江 野崎 誠一郎 野澤 節子
野田 美由紀 野村 春江 長谷川 恭子
畑山 みさ子 原 紀子 東根 順子
一杉 静子 平石 あつ子 藤井 初子
藤原 玲子 松岡 信子 三股 恵美子
三股 まさ子 三宅 純子 八木 高子
安田 寛子 山本 鉄子 山本 容子
吉田 亜希 依田 良子 淀川 敬子
渡辺 修一
長崎 YWCA
匿名

ピースメーカーカズ募金
(平和を創り出す女性のリーダー
シップ養成)

板橋 幸子 西村 幸枝 秋元 靖子
市川 真美 井出 都 岩城 代子
内山 康一 内山 伸子 江崎 啓子
遠藤 真理 及川 津紀子 大澤 恵美子
大西 しげ子 織田 光恵 加納 津子
嘉屋 陽子 河越 良子 河村 淳子
金香 百合 清塚 典子 吉良 保子
糸みち代 黒木 順子 神門 佐千子
河野 喜子 小谷 充子 小宮 一子
斎藤 喜子 坂上 信子 宮部 真理
佐藤 清子 佐藤 悦子 佐藤 正光
鹿野 幸枝 杉原 壽子 関むつみ
竹内 すなお 田附 和久 田中 京子
田中美紗子 谷内 基子 俵 恭子
手島 千景 中尾 真三子 長尾 真理子
中西 トク子 野田 悦子 野崎 誠一郎
仁木 三智子 野村 春江 橋本 健一
野澤 節子 東根 順子 篠山 淳子
藤井 初子 藤原 玲子 古谷 都紀子
松下 真佐子 三股 まさ子 黒木 直子
松田 ゆう子 宮本 政明 宮脇 燈子
村岡 愛子 森山 和子 山本 容子
淀川 敬子 渡辺 修一 渡辺 美智子
マリア保育園
みなも書房
日本キリスト教会沖縄伝道所
日本基督教団田園調布教会 シオン会
日本バプテスト女性連合
日本基督教団都島教会
学校法人横浜英和学院

東洋英和女学院 同窓会
釧路 YWCA
甲府 YWCA
一般財団法人平塚 YWCA
匿名

災害時支援募金
(国内・海外の災害被災者支援)

大野 綾子 三股 恵美子
日本キリスト改革派東京恩寵教会
執事会

(オリブの木キャンペーン募金)

磯村 美保子 市川 真美 井出 都
内山 伸子 宇都宮 芳子 梅林 宏道
榎本 みつ枝 遠藤 真理 及川 津紀子
大澤 恵美子 太田 ゆかり
大西 しげ子 岡田 淳子 梶井 洋子
柏木 妙子 川上 哲 河越 英里
河越 良子 金香 百合 糸みち代
栗山 義久 黒木 順子 小泉 陽子
神門 佐千子 河野 喜子 小谷 充子
斎藤 喜子 坂上 信子 坂和 優
佐藤 清子 佐藤 悦子 佐藤 正光
佐藤 輝美 鈴木 律子 関むつみ
俵 恭子 手島 千景 中尾 真三子
長尾 真理子 中山 美知子 西田 悦子
野崎 誠一郎 野村 春江
野村 裕子 八村 悠紀 服部 さち
東根 順子 平川 幸子 篠山 淳子
福田 公子 藤井 初子 古谷 都紀子
星 万里子 前田 晶子 三股 恵美子
三股 まさ子 宮澤 玲子 八木 高子
依田 良子 和田 博子 渡辺 修一
渡辺 美智子 吉岡 真紀子
匿名

(ツクライン支援)

上野 嘉屋 陽子 庄司 浩美
手島 正広
在日大韓基督教会京都教会
一般財団法人仙台 YWCA
公益財団法人京都 YWCA
公益財団法人福岡 YWCA
沖縄キリスト教センター 沖縄 YWCA
(パレスチナ YWCA 支援)

高屋 陽子 庄司 浩美 タキ ユリコ
露木 美奈子
在日大韓基督教会京都教会
公益財団法人京都 YWCA
匿名

(ビルマ/ミャンマー支援募金)

田附 和久 橋本 健一 山本 俊正
湘南 YWCA
東日本大震災被災者支援募金
日本基督教団市川三本松教会
日本 YWCA ユースエンパワメント
基金
大野 綾子 手島 千景 藤原 玲子
(2025年10月16日~12月15日
敬称略)

発行所 公益財団法人日本YWCA 〒101-0062 千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館302号室
Tel. 03・3292・6121 Fax. 03・3292・6122 office-japan@ywca.or.jp www.ywca.or.jp

編集発行人 藤谷 佐斗子 / 偶数月1日発行

旬な情報発信しています | メルマガ登録 y-net@ywca.or.jp | にお名前を送ってください / フェイスブック www.facebook.com/YWCAJapan

メールにてご意見・ご感想をお寄せください。今後の紙面づくりの参考にさせていただきます。 office-japan@ywca.or.jp

無断での複写・転用・転載はご遠慮ください。